

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第5部門第3区分

【発行日】令和1年10月31日(2019.10.31)

【公開番号】特開2019-95192(P2019-95192A)

【公開日】令和1年6月20日(2019.6.20)

【年通号数】公開・登録公報2019-023

【出願番号】特願2019-31213(P2019-31213)

【国際特許分類】

F 24 C 7/02 (2006.01)

【F I】

F 24 C 7/02 320

F 24 C 7/02 315

【手続補正書】

【提出日】令和1年9月19日(2019.9.19)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

被加熱物を入れて加熱する加熱室と、

前記加熱室の壁面に接続される天面に、設けられた観測窓と、

前記被加熱物を加熱する加熱手段と、

前記観測窓を視野範囲として前記被加熱物の温度を検知する赤外線センサと、

前記赤外線センサを収めるとともに前記赤外線センサを臨ませる窓部を有するユニットケースと、

前記加熱手段を制御する制御手段と、を備え、

前記ユニットケースを回動させることにより、前記窓部を前記観測窓に臨ませる状態と、前記前記窓部以外を前記観測窓に臨ませる状態をとり、

前記制御手段は、前記赤外線センサによる冷凍状態の被加熱物を検知した温度に基づいて解凍に係る加熱制御をすることを特徴とする加熱調理器。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

本発明は、上記の課題を解決するためになされたもので、被加熱物を入れて加熱する加熱室と、前記加熱室の壁面に接続される天面に設けられた観測窓と、前記被加熱物を加熱する加熱手段と、前記観測窓を視野範囲として前記被加熱物の温度を検知する赤外線センサと、該赤外線センサを収めるとともに該赤外線センサを臨ませる窓部を有するユニットケースと、前記加熱手段を制御する制御手段と、を備え、前記ユニットケースを回動させることにより、前記窓部を前記観測窓に臨ませる状態と、前記前記窓部以外を前記観測窓に臨ませる状態をとり、前記制御手段は、前記赤外線センサによる冷凍状態の被加熱物を検知した温度に基づいて解凍に係る加熱制御をするものである。